

新宮山彦ぐるーぷ第2030回
 釈迦ヶ岳・釈迦如来立像基部石積み修復工事

◇実施日：2019年06月25日(日) 晴時々薄曇

◇参加者：大峯山ボランティア「峰の友」 9名。

代表・浅井證善(奈良市・龍象寺)、

高木英舟(神戸市・指月庵)、高井良知(高野山)、

中原慈良(紀の川市・高野山大学講師)、

帰山恭行(四日市市・建設業)、大原弘信(奈良市・正暦寺)、

林 俊光(奈良市・正暦寺内)、田沼純空(香芝市)、

細川敬真(和歌山市・一休庵)。尚、細川氏は所用で25

日は欠席、翌26日単独で砂とバラスを荷揚げ下さいま
 した。

みちくさハイキングクラブ(和歌山市) 2名。

島本真澄(和歌山市)、髭白 孝(和歌山市)

山川治雄氏の山友 2名。

宮本英男(熊野市)、小久保好夫(熊野市)

山彦ぐるーぷ 11名。

沖崎吉信、川島 功、児嶋道夫、畑林清子、橋本 梓、

濱野兼吉、豊嶋 寛、山川治雄、瀧本昭太郎、梶野照雄、

志岐 敬。

合計24名。

着工までの準備と完工後の後片付け経緯

① 4月21日(日) 12名；登山口に資材デポと荷揚げ協力依

頼の看板設置、一部資材を山頂に運ぶ。(砂197袋、26

0kg バラス78袋、100kg セメント21袋、25kg)

② 5月22日(水) 3名；登山口に資材補充と山頂に雨水受水

槽(100リッター)を設置。(砂155袋、193.7kg

バラス47袋、62.5kg)を登山口に補充。

③ 6月18日(火) 村吉氏一名；深仙宿よりセメント18kgを
 山頂に荷揚げ。

④ 6月25日(火) 23名；セメント73袋、131kgと道具
 類(セメント練箱、練りクワ、スコップ、コテ・箒等)を荷
 揚げし工事に着手、同日午後修復完了。

⑤ 6月26日(水) 細川氏1名；資材荷揚げ；砂3袋、7.5
 kg バラス3袋、7.5kg。

⑥ 6月29日(土) 2名；雨除けのシート撤去とコンクリート
 の状況調査。

荷揚総量；砂355袋、441.2kg。バラス128袋、1
 70kg。セメント102袋、174kg。 合計585袋、7
 85.2kg。

深仙のあたりは、インドの霊鷲山が飛来した処で、そこを中
 心とした仏生、釈迦、大日、宝塔の四岳は最上の聖地で、ここ
 こそが大峯である。それ故、発心してここで修行すれば、十悪
 五逆の罪を滅して即身成仏し得るとされた。なお、深仙は役行
 者の終焉の地ともされている。

釈迦ヶ岳は、一釈迦・二富士とよばれていたことから判るよ
 うに、近世紀には富士と並ぶ名山とされていた。山頂から遙か
 彼方の海上に富士が望見されもした。その山は山容が、釈迦が
 説法した霊鷲山に似ていることによるとされ、釈迦の説法石が
 あり、転法輪岳とも呼ばれた。頂上には一間半四方の釈迦堂と
 籠堂が造られていた。そして釈迦堂には木像の高さ一尺の釈迦
 と8〜9寸の文殊(左)と普賢(右)の三尊が祭られていた。
 そして毎年4月8日には、前鬼の修験者が北山や十津川の人達
 とこの堂で法要を営んでいた。もつとも現在はこれらの建物は
 全て退転し、山上に大正13年に大阪佛立會が建立した金銅製の
 釈迦像がたてられている。(宮家 準：大峯修験道の研究より)

以上のことから、信仰心も薄く凡人の私にも、釈迦像建立の趣意が少し理解できた思いである。

昔から大阪佛立會という組織があつて建立したと思つていたが、釈迦像建立の発起人である水嶋富三郎と中嶋一乗の両氏が、このために設立したのが大阪佛立會であり、同会により建立・寄進された。その兩名の名は、釈迦像の台座部分に大きく記されている。その時のみの同会であつたのか、現在は存在していないし、活動の記録も見つからない。

釈迦像の製作は、鑄金師大谷秀一氏が担当、現在は、株式会社大谷相模擦鑄造所であり、後述の「平成の大修理」も担当された。

釈迦ヶ岳の釈迦像と言えば岡田雅行（鬼マサ）のことを書かざるを得ない。岡田雅行は、明治19年2月17日、天川村栃尾の生まれで、昭和45年12月、84歳で没している。

強力を生業とし、身長六尺二寸（185cm）、体重三十数貫（110kg）の巨漢で、大峯登山史最強の強力とされる。怪力と酒好きゆえに、地元では「大きなことばっかり言うんでな、ここらではテッポウ雅と呼ばれよつた。人をだますつもりではないが、山でカミナリの子を捕らえて食つたら、小便臭かつたとか言いよつた」などの逸話も多い。

大正13年大阪佛立會による釈迦像の建立・寄進があつて、架線もへりも無い時代にどうして山頂に運び上げるのか。周辺に強力は群居していたが、その大きさや重量に尻込みした。こうした中で当然のようにして浮かび上がってきたのが「鬼マサ」であつた。

「この仕事を成し遂げられるのはアイツをおいてほかには考えられぬ」と言う一致した判断が、鬼マサに白羽の矢を立てた。

「重い、長丁場は嫌」などと首を縦に振ることを渋つたが、沈黙の後「ワシを男と見込んで頼んでいるのか？男と見込んでのことなら頼まれよう」と、甲高い一声で決まつた、とある。

像の運搬は近鉄六田駅から三体の仏像、セメントや砂利、溶接

機材などを荷馬車で三日をかけ前鬼口まで運ばれた。

鬼マサの死闘はここから始まつた。大正13年の夏だった。残念ながら総重量の記録は無いが、前鬼口の標高が350m位、釈迦ヶ岳が1800m、その標高差はおよそ1500m、前鬼までの林道は無く、山越えがあるので累積では2000mを越えているだろう。

成瀬、前鬼、深仙の三方所を中継基地として、背負子や天秤棒に縛り「送り持ち」で運んだという。道中は天幕で寝起きした。

鬼マサの妻が同行し、飯を炊き汗まみれの衣服を洗つた。「カカ（妻）が毎日々水を浴びてワシの無事を祈願してくれた」と、唯一ホロツとする話がある。

心技体とも絶頂を極めた37歳の夏だった。破格の金額が提示されたはずである。

鬼マサはこの運搬を「一生一代の大仕事」と豪語し、死ぬまでこの偉業を口にし続けた。釈迦ヶ岳に登るたびに、得意の表情で奥駆行者に演説したという。

晩年の鬼マサは薄幸だった。ことあるごとに「釈迦ヶ岳の銅像は、このワシが一人で担ぎ上げた」と叫び酒に溺れたというが、彼の死を境に人々の記憶からも鬼マサは風をくらつたかのように消え去つた。
（前田良一 大峯山秘録より）

宮沢賢治風に書くと

東に倒木あればチェーンソーを持って処理に向き

西に道崩れあれば補修をし

南に落ちそうな橋有れば鉄製に架け替え

北に倒れそうな銅像あれば修復に向く

最近の我々の行事である。多忙な毎週である、そしてとても面白い。

さて、釈迦ヶ岳の釈迦如来像であるが大正13年の建立以来、長年の風雪にさらされて傾きが生じ、修理のため平成18年11

月14日に像全体を降ろして、約8か月間の修復作業の後、平成19年7月8日、総勢36名の方々が参加し(当ぐるーぷから17名)、像本体はヘリで吊り上げ頭部と光背は人力で山頂へ荷揚げして組み立て作業を行った。組み立て完了後に聖護院門跡の宮城泰年門主様を導師に開眼法要を執り行い平成の大修理が完了した。

以後、十津川側の太尾登山口までの道路が格段に良くなったこととインターネットの普及などで広くその存在が知られるようになった。山頂までの標高差が500m弱、極端な登りも無く2時間少々で登頂できるし、山容が美しく展望が抜群、大峰南部随一の人気の山との評判から、今では年間一万人以上の登山者で賑わっている。

大勢の登山者があるのは結構なことだが、人が増えるとその中に「アホ」「不届き者」がいることは否定できない。像足元の石積に登り、像に抱き着いた写真をネットにアップする者も現れた。



平成22年の石積



平成30年の状態



その結果、積み上げた石が少しづつ崩れて、一年ほど前から「放置しておくとも像が傾きかねない」との意見が多く聞かれるようになってきた。

当時(平成30年)、台風で転げ落ちた大日岳の大日如来坐像の修復、東北遠征登山、聖護院奥駈修行の接待と行事が目白押しで、秋になると日が短く、冬には積雪がある。年内は無理と考え、行政や教団が手を挙げる事も無いだろうと思いい、来年の4月以降に実行することを決めていた。

2019年(平成31年)、年も明け構想に取り掛かる。おそらくこの年の最大の行事となる事であろう。

作業手順の課題

- ① 工法について、できるだけ石を撤去して再利用、隙間にコンクリートを流し込む。でいいのか？
- ② 砂とバラス、セメントの必要量は？
- ③ 大量の砂とバラス・セメントの荷揚げはどうする？

工法については、基礎部に鉄杭を打ち込み横にグレーチングを渡せば？という提案があったが、基礎部の殆どが岩盤で鉄杭を打ち込む穴あけが出来ず、グレーチングの重さもあって、基本は石の再利用とし、近くから大きくて長めの石を運ぶこととした。

数年前、行仙宿で犬走りを舗装した際、砂とバラス、セメントで約1トンが必要だったので、今回は半分強の600〜700kgが最低限必要だと思った。

人気の釈迦ヶ岳であり、荷揚げは登山者の皆さんに協力をお願いするしかない。大日岳・大日如来坐像工事の際にも大いに助かった。

初回の荷揚げは大型連休の前とし、一袋を1.0〜1.5kgに小分した小袋にした。

4月21日に登山口に砂・バラス275袋、340kgを置いて、荷揚げ協力依頼の看板を設置した。何とか一か月位で空にならないか、いや是非とも空に、と心で念じていたが、連休の中日に梶野君からネット情報で数袋を残して大半が上がっている、と連絡があった。あーありがたい、感謝々だ。

4〜5日で275袋の大半が上がったようだ。これで資材荷揚

げの目途が立った。後はセメントだが、長期間山頂に置くわけにはいかず、着工時に150kgと200kgを道具類と共に荷揚げする必要がある。その為の人員確保のみに問題が絞り込めた。

大峰山ボランティア「峰の友」代表浅井證善師の協力について我々は大峰南部を中心に維持・管理の活動を行っている。

組織として活動をしているのは我々だけではなく「峰の友」さんも、大峰で色々のご尽力されている。行仙宿でお手伝いもいただき、交流も持った。また深仙宿前の崩壊防止でも手を携えた過去もある。

今回の修復作業について浅井師とのやり取りは、5月3日、4月30日に我々で25袋揚げました。

5月12日に深仙登拝、全て上がっていました。5月30日に10名で再度登拝、功德を積むため、砂・バラス用意されたし。

5月30日に16名で釈迦登拝、5月22日に用意していた200袋は全て上がっていました。登山者に善意の方が多いのは、ありがたいことです

以上のことから、かなりの頻度で釈迦・深仙に登拝されていることが判り、セメントの荷揚げと工事着手への協力を依頼。

その結果、6月25日に8〜9名が参加可能だが「広島や岡山などの遠方からの参加者がいるので、雨天の場合でも決行をお願いする」とのことだった。

和歌山市の会友・瀧本さんは「みちくさハイキングクラブ」の島本さんと髭白さんに声をかけて下さり、会友・山川さんも熊野市の宮本さん、小久保さんの2名同行でお手伝いくださると連絡を頂いた。

当てる一歩からは、11名の参加申し出があり、総計24名となつて、作業の目途が立った。

後はこの梅雨のさなかのお天気である。天気予報を三民放と日に何回も確認した。25日前後は曇りや雨のようだが、この

25日のお天気はいよいよだ。祈りが通じたようである。こうしてもろもろの準備を整え、皆さんへの連絡・確認も済ませ、当日を迎えた。

新宮組7人は早朝5時30分に出発。早朝でありスイスイの走行で、2時間で登山口に着く。既着していた浅井師と遠方からの参加者に挨拶の後、皆さんに集まって頂き、お礼と今日の作業スケジュールなどの説明をする。

各自セメント小袋や道具類(練り箱2、練りクワ、スコップ、コテ・箒など)を背に、午前8時前から歩き始める。



登山口で作業始令



登山開始



不動木屋登山道分岐で

いつも最初に休憩する不動木屋登山道分岐で、先日梶野君が切り落としたが一人や二人では動かせず、木にもたれかかったままになっていた斜木(長さ4m、太さ30cm強を、6〜7人で引きずりおろしてベンチ代わりに水平に置いた。多人数だからこそ作業で、修復工事前の皆さんの気概を感じた瞬間であった。

古田の森、千丈平で小休止して、10時半少し前に山頂に着く。浅井師による安全祈願勤行の後、崩れている最下部の石の除去を始める。全員で手渡し等によって除去を行って、あらかた撤去は終わったが、事前のイメージとは違って石積の下は全て岩盤ではなく、土の部分も多くて箒で掃いても土を取り除くことが出来

ない。



古田の森で小休止



奥駆道合流直前の急登



作業前の安全勤行

基礎コンクリートの上に石を積み予定だったが、土の上ではコンクリートが多く必要になるため、石積の隙間をコンクリートで固める方式を取った。



基部の石積み直し作業中

周辺から大きくて長方形の石を調達してくる者、ビニール袋を破って砂・セメントを練箱に入れる者、そして練方や石積に専念

する者。石の隙間にコンクリートが入るように細い棒で突く者など、特別に指示しなくても、それぞれが持ち場を決めて作業を進めた。
 多人数でもあり、皆さんのガンバリもあって、お昼前には胸近くの高さまで積み上がり終点も見えてきた。後一時間で積み上げを終え、その後の一時間で仕上げと片付けが出来そうだ。



本日の参加者



最古の石柱立て直し



隙間にコンクリートを



石積み隙間にコンクリート詰と練り作業



昼食と休憩もそこそこに、20分程で午後の作業に取り掛かる。午前中の作業と同様に、私はこれを、俺はあれを、と皆さんが自発的に担当する作業を決めて、黙々と専念される。

外周の石積が完成し横に置いていた石を上に乗せ、隙間を小石で埋めて、残りのコンクリートで一部を固めた。

再度修復の登頂も必要かと思っていたが、大人数のガンバリもあって短時間で令和元年の修復完工を見た。

◎コンクリートの練方は何度か経験しているが、体力のいる作業で大変だ。最初から最後まで担当していただいた宮本、髭白のお二方ありがとうございます。

◎荷揚げされた砂・バラス、セメントは全て使い切って残すことがなかった。

◎岡田雅之（鬼マサ）と同じように、釈迦ヶ岳に登った際には「この土台は俺が造った」と大いに自慢しようではないか。

作業が終了して、皆さんにお礼を申し上げ、修復完工を祝って万歳三唱、浅井師に無事完工の勤行をお願いして、本日の作業の締めとした。作業を終え釈迦ヶ岳を午後2時過ぎに下山。



ほぼ完成



雨除けにシートで被う



無事完工の勤行

釈迦如来立像も「ありがとう、ご苦労さん」と言っているようだ。大仕事を無事に終えることが出来、充実感・満足感に浸った。皆様、お疲れ様でした！

「峰の友」の皆様、翌日に単独で砂とバラスを揚げて下さった細川さん、和歌山市からの島本・髭白さん、熊野市からの宮本・小久保さん、釈迦如来立像基部修復の協力依頼看板に賛同して砂・バラスを荷揚げして下さいました一般登山者の皆さん。そして山彦ぐるーぷの皆様衷心よりお礼申し上げます。

尚、後日6月29日、梶野、山川のお二人は再度釈迦ヶ岳の山頂に向いて、雨除けに張ったブルーシートを回収、コンクリートの乾燥状態をチェックされた。大変ご苦労様でした。

行動タイム

7:30 太尾登山口 7:55→8:30 不動木屋登山道分岐→9:15 古田の森
→9:50 千丈平(水場)→10:05 奥駈道合流→10:15 釈迦ヶ岳→
10:35 作業→11:50 昼食→作業 13:55→釈迦ヶ岳 14:10→14:50
古田の森→15:20 不動木屋登山道分岐→16:00 太尾登山口。

(記：沖崎 写真：川島、梶野)